

入浴介助加算に係る研修

入浴の手順とその注意点について

【重要】入浴介助加算の算定要件

○令和6年度介護報酬改定にて、入浴介助加算の算定要件が変更されました。

サービス種別	入浴介助加算（Ⅰ）	入浴介助加算（Ⅱ）
通所介護	40	55
通所リハビリテーション	40	60
地域密着型通所介護	40	55
認知症対応型通所介護	40	55

《入浴介助加算Ⅰの算定要件》

- ・入浴介助を適切に行うことができる人員及び設備を有して行われる入浴介助であること
- ・入浴介助に関わる職員に対し、入浴介助に関する研修等を行うこと

【重要】入浴介助加算の算定要件

○令和6年度介護報酬改定にて、入浴介助加算の算定要件が変更されました。

《入浴介助加算Ⅱの算定要件》

入浴介助加算（Ⅰ）の要件に加え、以下を実施。

・医師、理学療法士、作業療法士、介護福祉士、若しくは介護支援専門員又は利用者の動作及び浴室の環境の評価を行うことができる福祉用具専門相談員、機能訓練指導員、地域包括支援センターの職員その他住宅改修に関する専門的知識及び経験を有する者が**利用者の居宅を訪問し、利用者の状態を踏まえて浴室における利用者の動作・浴室の環境を評価**すること。

・機能訓練指導員等が共同して、利用者の居宅を訪問した者との連携の下で、利用者の身体の状態や訪問により把握した利用者の居宅の浴室の環境等を踏まえた**個別の入浴計画を作成**すること。

・入浴計画に基づき、**個浴その他の利用者の居宅の状況に近い環境**にて、入浴介助を行うこと。

※大浴槽等においても、手すりなど入浴に要する福祉用具等を活用し、浴室の手すりの位置や使用する浴槽の深さ及び高さ等を踏まえることで、利用者の居宅の浴室環境の状況を再現していることとして差し支えない。

【重要】入浴介助加算の算定要件

2. (2) ① 通所介護等における入浴介助加算の見直し②



※ 黒字下線部 → 留意事項通知やQ&Aで示している内容を告示に明記した部分。 赤字 → 新規追加部分。

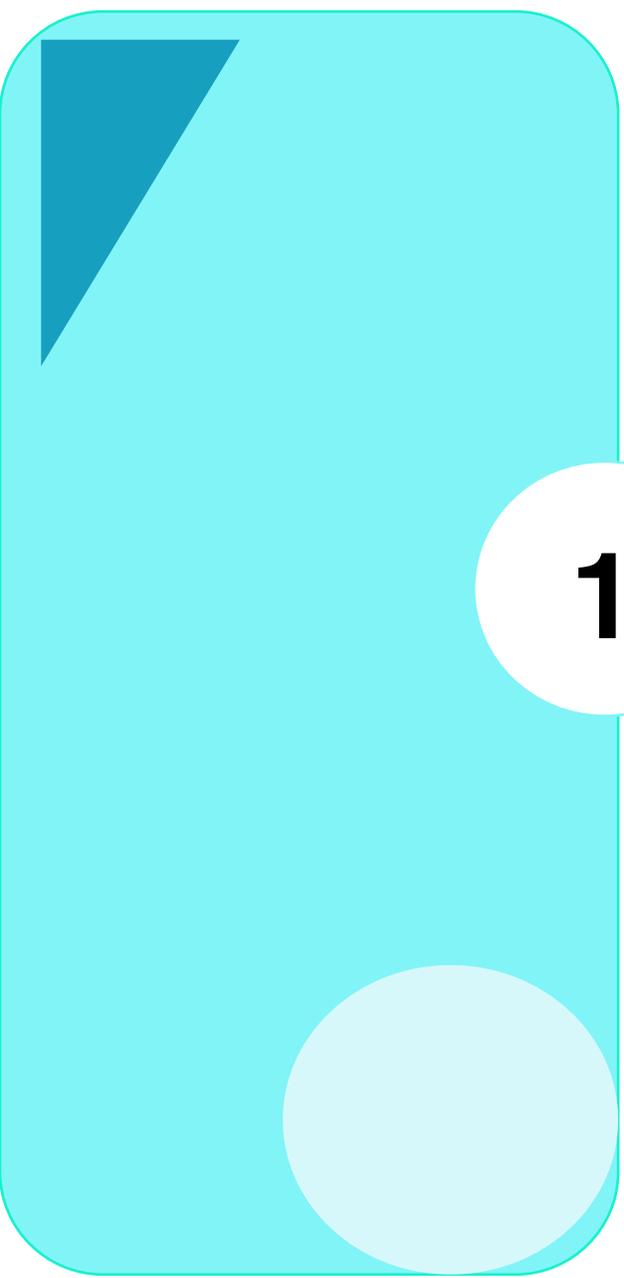
【重要】入浴介助加算Ⅰの研修に係るQ&A

【入浴介助加算(Ⅰ)】

問60 入浴介助に関する研修とは具体的にはどのような内容が想定されるのか。

(答)

- ・ 具体的には、脱衣、洗髪、洗体、移乗、着衣など入浴に係る一連の動作において介助対象者に必要な入浴介助技術や転倒防止、入浴事故防止のためのリスク管理や安全管理等が挙げられるが、**これらに限るものではない。**
- ・ なお、これらの研修においては、内部研修・外部研修を問わず、入浴介助技術の向上を図るため、継続的に研修の機会を確保されたい。



1 入浴の目的

①入浴の目的

1、身体の清潔を保つ

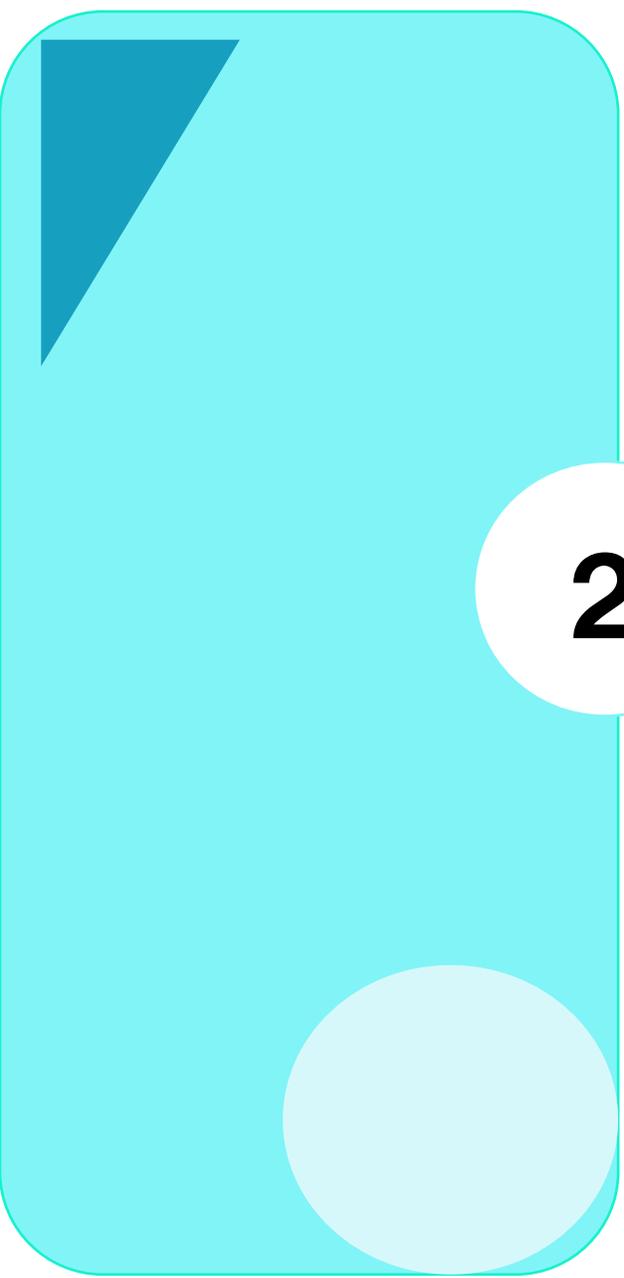
皮膚の汚れや細菌等から清潔を保つことで、褥瘡予防や感染症等のリスク軽減につながります。

2、全身状態の確認

全身状態の確認を行うことで、衣類を着ていると発見することができない傷や内出血などの早期発見につながります。

3、心身のリラックス

入浴により、血液循環の促進や新陳代謝が高まります。また、筋肉の緊張をほぐし、関節痛等の痛みを和らげる効果もあります。副交感神経が刺激されリラックス効果も生み出します。



2

入浴前に確認すること

②入浴前に確認すること



ご利用者の体調確認

体調が悪きときに入浴すると、体調不良を起こしたり、急変を起こしたりすることがあります。

入浴の前には、きちんと健康状態の確認をしておくことが重要です。

- 血圧、体温、脈拍などのバイタル
- 呼吸状態
- 普段と比べて表情などに変わりはないか？
- 食欲の有無
- ご本人の入浴の意向※精神面も含めて

②入浴前に確認すること

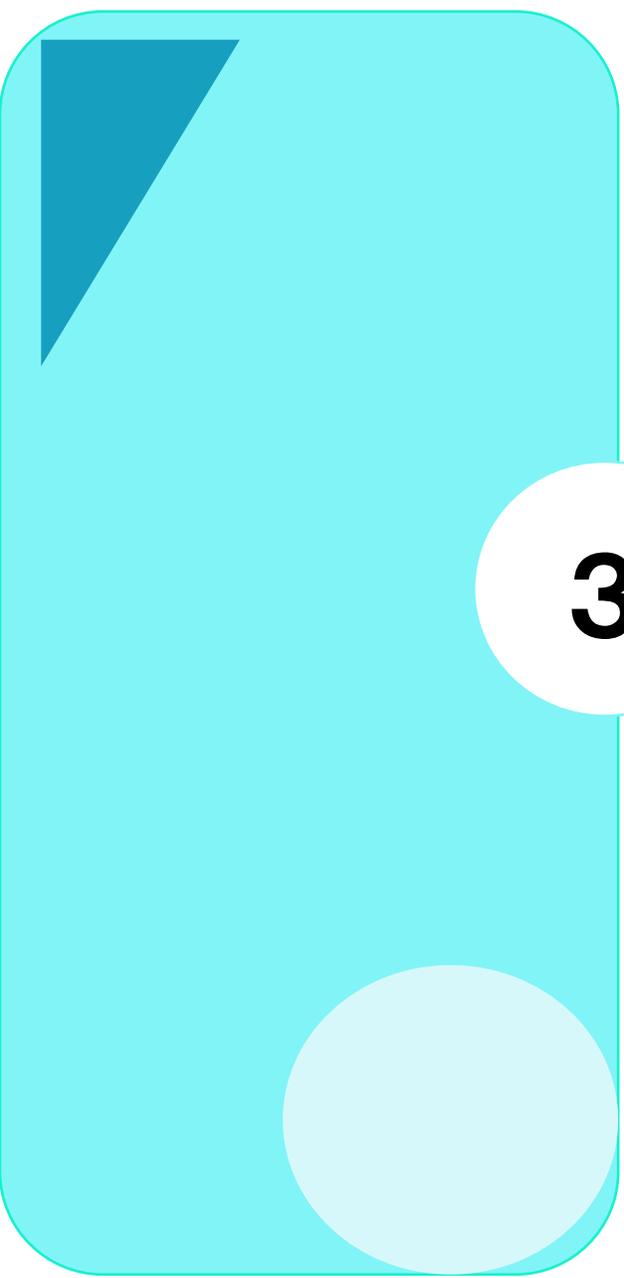


ご利用者の全身確認

入浴前は、全身状態を確認する機会になります。

皮膚の乾燥や傷の有無、湿疹等がないかなど、全身の確認を行いましょう。

寝たきりや長時間座位姿勢をとっている方は、皮膚の赤身や床ずれなどができやすいため、併せて確認しておきましょう。



3

入浴介助の準備品

③入浴前介助の準備品



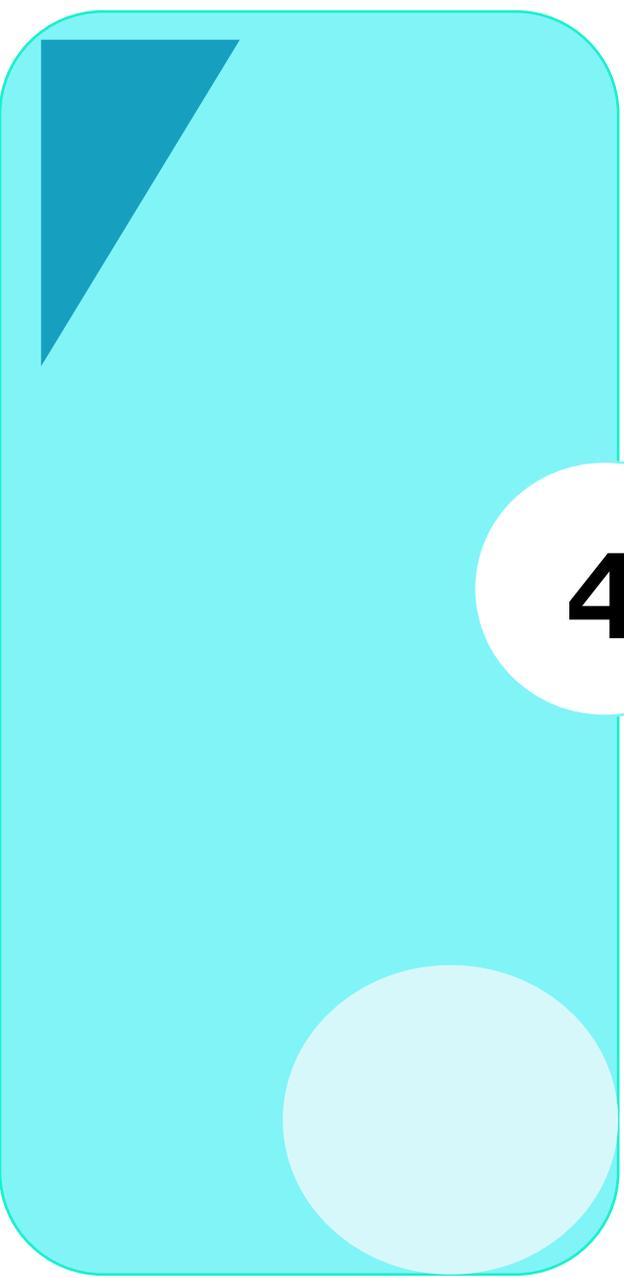
入浴介助の前に準備するもの

- 着替え（必要な場合、オムツやパットなど）
- タオル（フェイスタオル及びバスタオル）
- ボディソープ
- 洗身タオル
- シャワーチェアや滑り止めマット
- 処方されている軟膏や保湿剤など
- ドライヤーやくし、爪切りなどの整容道具
- 防水エプロンや滑りにくい靴など（職員用）

③入浴前介助の準備品

◆ 準備品のポイント

- 高齢者の肌は、非常に敏感であるため、洗身タオルは**肌触りがよく柔らかい素材**のものを選びましょう。
- タオルは、サイズが大きく吸収性の高いものを準備しておく、**体を拭く時間を短縮**につながり、**ご利用者の負担軽減**にもつながります。
- 着替えは脱衣所に置いておき、オムツや尿取りパッドを使用している場合は、**使用している方法と同じようにセット**しておきましょう。
- 保湿剤や皮膚科で処方されている軟膏などは、入浴後の清潔な肌に塗るようにしましょう。
- 介護者は、体が濡れないように水を弾く素材のエプロンや手袋を着用し、滑りにくい靴を履いて介助を行いましょう。



4 入浴手順と注意点

④入浴手順と注意点

入浴前の手順

浴室の準備

- ・浴室や脱衣場を温める
- ・シャワーチェアなど必要な備品を準備する
- ・浴槽にお湯をはる(温度の確認)

ご利用者の体調確認

- ・バイタルチェック等の体調確認をする
- ・ご本人に入浴の意向確認を行う

ご利用者をご案内

- ・事前にトイレに行く
- ・脱衣場へご案内し、衣類を脱いで頂く、または介助する
- ・浴室へお連れする

<入浴前の注意点>

- 体調確認は確実にを行う
- ヒートショック対策を十分に行う
- 空腹時や食後すぐのタイミングでの入浴は避ける
- 衣類を脱いで頂くときは、羞恥心に配慮する

④入浴手順と注意点

入浴中の手順

洗身・洗髪の前準備

- ・触れるところ、座る椅子などを温める
- ・手すりなどに使用しながら、転倒しないように座っていただく
- ・介護職員がシャワーの温度を確認し、適温であればご利用者に声をかけながら、足元からお湯をかけていく

洗身・洗髪を行う

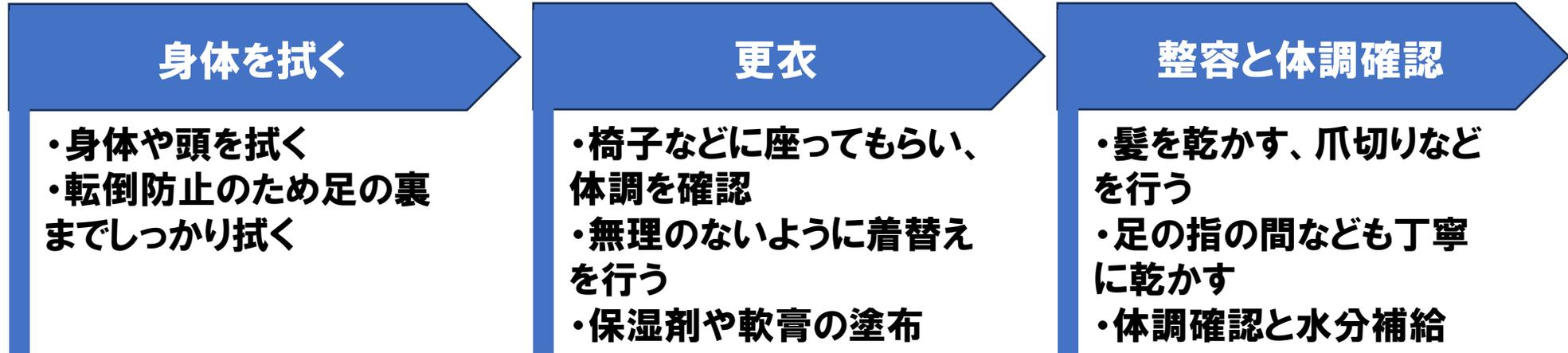
- ・髪→顔→上半身→下半身の順に、優しく丁寧に洗う
- ・便などの汚れが残っていないか確認する
- ・流し残しがないように確認する
- ・洗身・洗髪を行う際は、必要に応じて声をかけながら行う

浴槽に入る

- ・洗い残しや流し残しがないように十分確認をする
- ・手すりにつかまっていたなど、転倒などに十分注意しながら、浴槽へ移動していただく
- ・長時間の入浴でのぼせないように5分程度目安にする

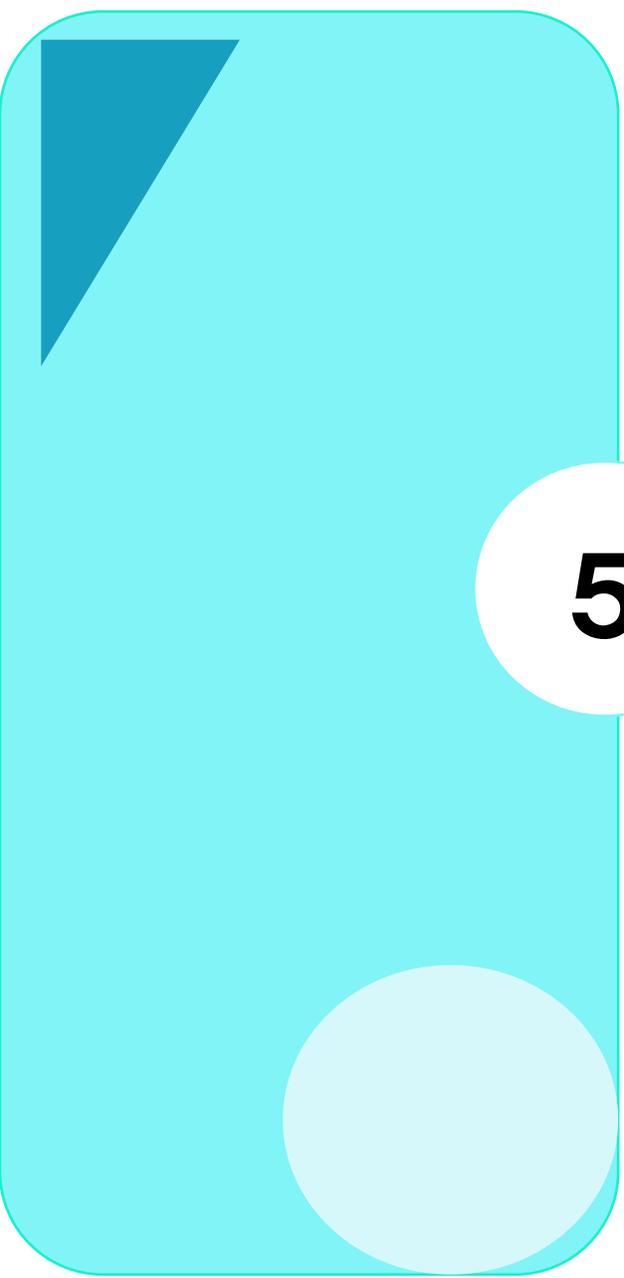
④入浴手順と注意点

入浴後の手順



<入浴後の注意点>

- のぼせていないかなどの体調確認
- ふらつきや滑ることによる転倒に注意
- 水分補給を促す



5

まとめ

⑤まとめ

- ご利用者の入浴の目的を理解する**
 - 体調確認や事前の準備を怠らない**
 - 脱衣場や浴室での転倒事故などに注意する**
 - 一人ひとりに合わせた入浴介助を行う**
 - 入浴後の体調確認も重要**
-